

ふれあって命の大切さを実感 子育てサロンと小中学校の交流

平成 19 年度から、丸子地区子育て支援推進委員会が小学生に乳幼児とのふれあいを通し命の大切さを子どもたちに学んでほしいと、地元小学校の総合学習「生命の授業」への協力を始めました。平成 23 年度からは小杉地区も加わり、平成 24 年度には 6 年目の「生命の授業」が行われました。また、大戸地区では平成 16 年度から、丸子地区、小杉地区では平成 18 年度から、中学生ボランティアの受け入れに協力しています。子ども達や保護者の感想をご紹介します。

小学生の感想（川崎市立西丸子小学校・上丸子小学校）

赤ちゃんを抱かせてもらって、1 歳 1 か月なのに髪の毛も生えていて、重かったです。お母さんは赤ちゃんの泣き方で「お腹がすいた」「暑い」などの気持ちが分かってすごいなぁと思いました。自分の小さいときもこんな感じだったのかなぁと思い、お母さんに感謝したいと思いました。（6 年女子）

今日の子育てサロンで赤ちゃんとのふれあい、僕もこんなに泣いて笑っていたんだなぁと思いました。どんなに分からなくても赤ちゃんはお母さんのことが分かってすごいと思いました。特に今日ふれあった満ちるちゃんは、僕達にふれあうとすぐ泣いちゃう子だったのに、お母さんのところに戻ると泣きやみ、寝てしまいました。それだけ赤ちゃんはお母さんのところが安心なんだなぁと思いました。僕は世界に 1 人しかいない、僕を産んでくれたお母さんに感謝しています。だから僕は自分自身を大切にしていこうと思いました。（6 年男子）

中学生の感想（川崎市立中原中学校・西中原中学校）

私には小さい兄弟がいません。なので、最初赤ちゃんとは対面した時はとまどってしまい、緊張しました。しかし、ボランティアの方々に声をかけていただいたので、6 か月の赤ちゃんを抱くことができました。思っていた以上に軽くてびっくりしました。首が座っていたので少しは安心して抱けましたが、一番気をつけたことは、落とさないことと、優しくゆっくりとタオルに戻すことです。初めてあんなに小さい手を見て「昔は私もあんなに小さかったんだなぁ」と改めて感じました。手の方に私の指を持っていくと、しっかり握ってくれて、本当に嬉しかったです。貴重な経験になりました。（3 年女子）

私は初めて子育てサロンに参加して、ちゃんと赤ちゃんと一緒に楽しく遊べるかな・・・と少し心配でした。しかし、赤ちゃんの方から笑ってくれたり、遊んでくれたりして、なんだか赤ちゃんの方が私を楽しませてくれているように感じました。赤ちゃんには、人を癒してくれる力があるんだなぁ・・・と感動しました。また、なんでも口に入れたり、すぐにどこか遠くに行ってしまうたりするので、子どもの安全を見守るのは難しく大変でした。自分の親も、私が小さいときに同じことをやってくれていたんだ・・・と思い、親の愛情を感じました。私も子どもができればそんな親になりたいなぁ・・・と思いました。（3 年女子）

初めて赤ちゃんを抱っこした時、自分の服にしがみついてくれて、本当に嬉しかったです。こんなに嬉しい経験をしたのは久しぶりだったので、とても感動しました。将来、自分の赤ちゃんができるのが楽しみになりました。（2 年男子）

保護者の感想

交流会の中で、先生方の挨拶の後に一斉に拍手をすると、それを見ていた息子も手をたたいて真似をしていました。「手を叩いてる！すごいね、できるんだ！」と生徒さんが言うと、今まで見せたことのない表情で照れながらとても喜んで、「できるよ！」と何度もしていました。こんな表情をするんだと私も新しい発見でした。子どもはコミュニケーションの中でこうやって成長していくんだと気づき、私にとっても心の授業となりました。（1 歳児の母）

今回初めて「生命の授業」に参加させていただきました。私たちは赤ちゃんの頃、親からたくさんの愛情を受けて育ったことをはっきり覚えていられません。私自身、親になり初めて受けた愛情の大きさに気がきました。「生命の授業」は自分がとても大事に育ててもらったことや、周りのみんなが同じように大切に育てられた一人ひとりだということを、肌で感じられる素晴らしい授業だと思いました。娘が大きくなったときにも、このような授業を受けてもらえたらと願っています。（1 歳児の母）

